

研究会を企画し、運営している若手教師に会の活動やいきさつを紹介してもらいました。

「大学で学ぶ理論は役に立たないのか」「現場での実践は教師の感覚で行うだけでよいのか」

今から5年前に友人と居酒屋でした会話です。

学生時代、部活をやり過ぎてしまい、志願していた教員採用試験を忘れてしまった私は、いろいろと悩んだ結果、大学院に進みました。

週の半分を大学院で、残りの半分を学校や教育施設で過ごしました。大学院で教育理論を学ぶ一方、いわ



## 森 俊郎

エビデンス・ベースド・エデュケーション研究会代表

# 理論と実践をつなげる場に

ゆるやかな学校で、生徒と雑談したり、時にはナイフを首に突き付けられたりもしました。

そして考えついたのは、「理論も実践も両方大事だ」という、至極当たり前のことでした。こうしてエビデンス・ベースド・エデュケーション研究会が生まれました。

初めはただの飲み会でした。わらううちに、メンバーの中であるキーワードが共有されていきました。それが、現在の研究会の名前にもなっています。

エビデンスとは「証拠」という意味です。つまり、エビデンス・ベースド・エ

からも参加があります。例年8月には京都で、3月には広島で研究会を開催します。「エビデンス」をテーマに、それぞれの実践や研究成果・海外の教育動向などが主に発表されます。

で、同じ「教育」というものを語っている場でありながら、二つの場に大きなギャップを感じたのでした。

冒頭の会話は、そんなギャップから起こりました。

だが、ある時、居酒屋にレジュメを持参するメンバーも出てきて、いつの間にか会場を借りて互いに勉強していることを発表し合う研究会になりました。会を重ね

デュケーションとは「証拠に基づいた教育」ということになりました。

その内容は、授業研究から生徒指導まで多岐にわたります。普段は、実践者と研究者がチームを組んで実践研究を行ったり、メーリングリストを活用して情報交換を行ったりしています。

こうした場は、教師になつた今だからこそ大きな価値があると感じています。ぜひ一度、参加してみませんか。(岐阜県公立小学校教諭)

高校・大学で教えている者、海外の研究者、文部科学省をはじめとする教育行政機関に所属する者、教育NPO、一般企業に勤める者、そして国立教育政策研究所

会には「理論も実践も大事であること」「年齢や職業に関係なく対等な立場とすること」「全員が発言すること」以外、何の決まり

もありません。「コマダ(カフエ)以上の入店(参加)しやすさと学会以上に科学性ある実践研究」を目指しています。